



北区の部屋だより

2026年4月 第200号

刊行物登録番号 7-2-179



編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台1-2-5 TEL.03-5993-1125 令和8年4月発行



ひらかた

平方の「お獅子さま」



2026年（令和8）も4月になって年度が変わり、何かと忙しい日々を送っている区民の方も多いのではないのでしょうか。一方で純然たる農村であった頃の北区域を思い起こせば、4月は農作業が暇な頃で、それ故に祭りにはとてもよい時期だったといえます（『北区史民俗編3』東京都北区、1996年、253頁以下、特段出典が記していないものは同書より）。そして、この4月のお祭りといえば、4月上旬に行われた「お獅子さま」が思い浮かびます。

「お獅子さま」とは、平方の八枝神社（埼玉県上尾市平方）から獅子頭（「狛狗大神」）を借り受け、それを神輿のようにして村内を巡回させる行事で、北区域の村々でも戦前までは盛んに行われていました。浮間村でこの「お獅子さま」に参加したことのある方の話によると、「お獅子さま」には各家から必ず1人は参加することになっていたので、村を回る時は200人くらいの人がつ

いて歩き、家を一軒ずつまわってみんなで般若心経を唱え、鉦を叩いた、といえます。また、「お獅子さま」の下をくぐると病気になるという信仰があったことから、家の中に入ると獅子頭を高く持ち上げ、その下を家の人がみんなくぐったのだそうです。

さて、神輿となるこの獅子頭ですが、その耳には不思議な逸話が各地に残っています。浮間村で、「お獅子さま」を担いでいるうちに、耳がなくなっていることに気づきました。神社へ返しに行った際に謝ったところ、耳だけ先に帰っていて驚いたといえます。また、稲付村では乱暴な扱いに怒った「お獅子さま」が耳を落とし、その耳だけ先に神社へ帰ってしまったという話が伝わっています（『調査報告第3号平方のお獅子さま』東京都北区教育委員会、1986年）。

浮間地域では1949～50年（昭和24～5）頃に行われたのが最後となったそうですが、平成に入ってまた、新たなかたちで行われるようになりました。

現在でも、毎年のように新たなお祭りや行事が誕生していますが、一方で時代の変化の中で行われなくなっていく行事も少なくありません。単純に、それがいいとか、悪いとかいうのではなく、そうした行事を通じて当時の人々の思いに考えを巡らせるのも大切かと思えます。



八枝神社の護符
（「旧袋村本橋家文書」）

八枝神社の獅子頭

【地域資料専門員 保垣 孝幸】



「北区の部屋だより」200号目を迎えました！！

おかげさまで、「北区の部屋だより」は200号を迎えることができました！！
200号を記念して「北区の部屋」についてご紹介します。



「北区の部屋」とは

みんなが知っているようで、知らない「北区の部屋」。「北区」に関する図書に加え、地図や写真、江戸時代の古文書などの地域資料を収集保存活用しています。

資料や展示を通して北区のことをよく知らない人には、わかりやすく、すでに知っている人にはさらに深く知ってもらえる、“北区のことならなんでもわかる”場所です。



「地域資料専門員」とは

北区の歴史の専門家で、主に「北区の部屋」にて地域資料の収集・整理・レファレンスなどを行っています。また、新聞やTVなどへの地域資料（写真）の貸出、北区に関する企画展示、歴史に関する講座・講演会なども行っています。北区に関する素朴な疑問から専門的な質問まで、利用者の「なぜ？」にわかりやすくお答えします。こぼれ話にいくつか具体例も載っています。扉の奥の作業室にいますので、お気軽にお尋ねください。



日本近世史
保垣孝幸地域資料専門員



日本近現代史
佐久間乙葉地域資料専門員



「地域資料」とは



北区の図書館では、北区と東京及び東京・埼玉の近隣区市などの行政が発行している資料（行政資料）と、北区と東京・その他北区と関連が深い地域に関して書かれた資料（郷土資料）を収集し、それらをまとめて地域資料と呼んでいます。地域の範囲は自治体によって異なりますが、北区立図書館の場合は“北区や東京などの地域について書かれた資料”に特化しています。今度、記念館が^{あくたがわりゆうのすけ}つくれる芥川龍之介も北区に住んでいたことから、「北区」にゆかりのある作家の作品として「地域資料」として所蔵しています。1万円札の顔の^{うちだやすお}渋沢栄一も「北区」にゆかりのある人物として、コーナーを作っています。そのほか、北区が舞台の、^{あさみつひこ}内田康夫氏の小説「浅見光彦」シリーズや^{せいの}清野とおる氏の漫画『東京都北区赤羽』も大事な「地域資料」のひとつです。

「年表」にしてみました

実際に北区で起こったおもな出来事と『北区の部屋だより』のトピックの一部を年代別にしてみました。なお、『こぼれ話』は、冊子にまとめ、中央図書館から書籍として発行しています。図書館で貸出をしているほか、1冊200円で有償頒布も行っています。一気に読みたい方におすすめです。

※下表の略語 (展) →北区の部屋・今月の展示 (話) →北区こぼれ話

おもな出来事

『北区の部屋だより』のトピック

江戸

1720年 徳川吉宗が飛鳥山に桜を植えた
1750年頃～ 江戸近郊名所として多くの庶民が王子を訪れた
1780年頃～ 六阿弥陀詣が流行した
1858年～ 開国後、多くの外国人が王子を訪れた

「お花見対決！上野VS飛鳥山」(展) 第9号
「飛鳥山」(展) 第81号
「観光スポット飛鳥山の変遷ー江戸名所から新東京名勝まで」(展) 第31号
「『名所江戸百景』に描かれた北区」(展) 第101号
「外に出よう！！ー六阿弥陀詣の人気のヒミツ」(話) 第68回
「外国人から見た幕末の王子」(展) 第67号

明治

1873年 渋沢栄一が抄紙会社を作った
1883年 上野ー熊谷間に鉄道が敷設された
1904年 日露戦争が起こった

「イギリスの外交官アーネスト・サトウをがっかりさせた製紙工場」(話) 第149回
「写真で振り返る北区の鉄道140年」(展) 第160号
「王子駅開業140周年」(展) 第169号
「からみレンガの謎を追う旅」(話) 第47回

大正

1923年 関東大震災が起こった
1924年 旧岩淵水門が完成した

「美談を語ることの難しさー関東大震災の美談集に描かれた滝野川町」(話) 第32回
「関東大震災から100年ー北区域の被災と復興」(展) 第167号
「旧岩淵水門と荒川放水路ー通水100年重要文化財指定へ」(展) 第179号

昭和

1941年 太平洋戦争が起こった
1947年 王子区と滝野川区が合併し、北区が成立した
1964年 東京オリンピック開催

「記憶と知識ー記憶を補完するなかで〜」(話) 第194回
「『北区』はどうして『北区』なの??」(話) 第2回
「東京1964ー2020+1」(展) 第144号
「オリンピックをきっかけに北本通りの話」(話) 第138回

平成

1990年 北とびあ完成
2011年 東日本大震災が起こった

「北とびあは1位ではなくなっていたー北区のビル高さ比べ」(話) 第191回
「改めて考える『地域資料』」(話) 第21回
「震災から一年が経って『東日本大震災』から学ぶ」(話) 第33回

令和

2019年 平成から令和へ改元
2020年 新型コロナウイルスの感染が広がった
2024年 渋沢栄一を肖像とする新一万円札が発行された

「『令和』改元記念?! 江戸時代の新年号の話」(話) 第118回
「疫病対策で外出を自粛する江戸の人々」(話) 第130回
「渋沢栄一と福沢諭吉の少年時代ー祈祷師の嘘を見破る」(話) 第179回

北区の部屋・今月の展示 出動！「赤羽工兵隊」！



赤羽根駅構内の炊き出しの様子
明治43年(1910) 梶原利夫氏撮影

■展示期間 4月1日(水)～4月22日(水)
■展示場所 「北区の部屋」企画展示コーナー

戦前の赤羽には、第一師団工兵第一大隊と近衛工兵大隊というふたつの工兵隊が置かれており、「赤羽工兵隊」と呼ばれていました。特に、自然災害の復旧活動や赤羽周辺の消防活動などの多様な活動に尽力したことから、周辺住民の信頼も厚かったようです。

そこで、今回は戦前の新聞記事を用いて、工兵隊と地域との関わりの一端を紹介します。

講演会・講座 開催しました！！

歴史講演会 2月21日(土) 「見えない水路を辿る ～北区の暗渠～」第2回目 応用編

「暗渠マニアックス」高山英男氏・吉村生氏をお招きした連続講座の第2回目「応用編」を開催しました。『北区新聞』の記事や産業、軍事施設や暗渠サイン（銭湯や製館所、弁財天は川のそばにあることが多いので暗渠の目印になる）の紹介などがありました。「前回紹介した暗渠に実際に行った人いますか？」の問いにほとんどの方が手を挙げ、参加者の関心の高さがよくわかりました。講師から「みなさん「北区暗渠大使（自称）」になってください」とのお声かけに、会場が熱気に包まれました。

公開歴史講座 3月7日(土) 「江戸時代の人々の暮らしと文化 ～かつての北区民のライフスタイル～」

保垣孝幸地域資料専門員による公開歴史講座を行いました。人が生まれてから亡くなるまで、北区にある古文書を引用しながらの解説をしました。江戸時代であっても、出生や亡くなった時、離縁をした時などは、届け出が必要だったとのこと。保垣地域資料専門員の一年ぶりの登壇に、参加者のみなさまから「待っていました。」「ぜひ、今回の続きを行ってほしい。」等の声をいただきました。



古文書入門講座

「古文書って面白い！」開催のお知らせ

北区の旧家に残された江戸時代の古文書をテキストに、くずし字の解読方法や地域の歴史について学習します。

対象：区内在住・在勤・在学、18歳以上の方

定員：20名（抽選）

日時：令和8年5月8日～6月12日

場所：中央図書館3階ホール

毎週金曜日・全6回 午後2時～4時

講師：地域資料専門員ほか

申込：右記の申込フォームで4月28日（火）（必着）まで。

往復はがきも可。往復はがきの往信用（裏面）に講座名、〒、住所、氏名、ふりがな、年齢、電話番号

返信面（表面）に申込者の住所、氏名を記載。

送付先：〒114-0033 北区十条台 1-2-5 北区立中央図書館図書係



申込フォーム

